

卒業証書授与式 式辞

校長 澤山陽一

農場の温室を華やかに彩るシンビジウム、校庭でツバキの蜜を求めて飛ぶメジロたち、すべての物に春の兆しの感じられる今日の佳き日に、御来賓の御臨席、保護者の皆様方の御出席をいただき、令和2年度 愛媛県立伊予農業高等学校卒業証書授与式を挙げることは、在校生、教職員一同の大きな喜びであり、厚くお礼を申し上げます。

本年度も在校生すべての出席はかないませんが、卒業生の皆さんの胸元を飾るコサージュは、在校生が心を込めて各学科のイメージカラーで手づくりしたものです。卒業生への感謝の詰まったコサージュが、在校生の代わりにこの卒業式に出席してくれていると私は思っています。

卒業生の保護者の皆様には、入学以来3年間、お子様の健やかな成長を願い、陰になり日なたとなって支えてこられた愛情の深さに心から敬意を表しますとともに、無事に卒業の日を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。

さて、ただ今、卒業証書を授与しました卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。私は、皆さんとは、2年間のお付き合いでしたが、学校行事や部活動を通じて見せてくれた礼儀正しい振る舞い、そして、どんな状況の下でも懸命に汗出し、声出し、力を出して頑張ってくれた皆さんの逞しさは、私の、そして伊予農の誇りでした。たくさんの感動を本当にありがとうございました。

今日、あなた方の旅立ちにあたり、校長の私から、心を込めて送りたいものがあります。それは、「今、自分のできることに集中する」という言葉です。

テニスプレーヤーの大坂なおみ選手のことは皆さん知っていると思います。彼女は、先日、優勝した全豪オープンの準決勝で、女子テニス界の女王・セレナ・ウィリアムズ選手を下した際の記者会見でこう語っていました。

「セレナがネットの向こう側にいる状態で、自分が甘い球を返してしまったら、彼女がどう出るのが心配で、最初はエラーを連発してしまった。でも、0-2でリードされたときに、相手がどんなサーブを打つか、どんな激しいリターンを返すかなど自分にはコントロールできないことを心配するのはやめた。そして、自分のプレー、つまり、今、自分自身がコントロールできることに集中すると決めた。そうしたら、その後は1ポイントも失わなかった。」

「今、自分のできることに集中する」これは、なかなか、難しいことだと思います。受験や、部活動、農業クラブの発表などの場面で、相手や周囲のことが気になり、不安になった経験のある人も多いでしょう。また、これから、新しい学校や職場などで初めての体験をするとき、周囲の目が気になり、立ち止まってしまうこともあるかもしれません。でも、「大丈夫」と、校長の私は声を大にして言えます。なぜなら、本校は、実験や実習、地域と連携した活動が多く、自分が意識していなくても、皆さんはたくさんの実践力を身に付けていると断言できるからです。特に私がこれまで何回も伝えてきた「段取り力」つまり、仕事の成り行きを想像し、次に何をすればよいかを想像する力は誰にも負けないと思います。安心して、「自分のできることに集中」してください。

最後に、大坂選手はこうも語っていました。

「若い頃の私の目標は歴史的な偉業を達成することだった。でも、今は、私を全力で支えてくれるスタッフのために、素晴らしい結果を出したい。」

大坂選手のように周囲への感謝の心で、皆さんが「自分のできることに集中」できたなら、こんな素敵なことはないと思います。

いよいよ、お別れのときがやってまいりました。どうか、本校を卒業した後も、伊予農を忘れないでください。そして、ときどき、そういえば「笑顔と感謝」とか言っていた占い好きの校長がいたなあと思い出していただければ、こんな嬉しいことはありません。

皆さんが、これから、それぞれの場所で、自分自身のために、そして大切な誰かのために生き、豊かな毎日を送られることを心から祈念して、式辞といたします。